

みずみどり

2000年3月15日 第17号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

〒173-8501 板橋区板橋2-66-1 TEL 03-3579-2598

板橋区環境保全課内 FAX 03-3579-2589

みんなが支え、みんなが主役

いたばし水と緑の会総会のおしらせ

平成9年4月、赤塚公園の広場で設立総会を開いたのが、いたばし水と緑の会のはじまりでした。会には、区内の自然保護団体・環境会議の参加者や広報の呼びかけを見て来た人、会ののぼり旗をみてそのまま会員になった人などさまざまな人たちが集まりました。

3年を経て、赤塚公園を管理している東京都公園協会は私たちの提案を受け入れ、活動を支援するなど、協力関係が生まれつつあります。私たちは、身近に自然を回復させようという「公共的な目的」のために、「貢献しよう」と集まったボランティアです。この活動を推進するためには、公約を守り、責任ある会運営を行い、信頼される会を築いていく必要があります。

総会も4回目となります。ここで会の運営も見直し、新しいスタートを切りたいと思います。総会は文字通り全員総会です。少々堅苦しい議論もありますが、日頃参加できない方もこの機会にぜひご出席いただき、ご意見をお聞かせください。

日 時：4月22日(土)午後2時～4時

場 所：産文ホール第2会議室(文化会館の近くです)

都営三田線板橋区役所前駅下車6分または東上線大山駅下車7分

議 題：規約の改正、11年度活動報告と会計報告、12年度活動計画案と収支予算案、12年度役員承認、会の運営について、など

その他：水と緑の会の名札を持っている人は持ってきてください。ない人は受付に申し出てください。

会 費：300円(終了後、ビールとお茶で乾杯します)

市民の手で徳丸が原公園に自然の水辺を

徳丸が原公園にある池は、9種類のトンボをはじめ生き物でにぎわう自然っぽい水辺でしたが、漏水がひどいため、平成10年にはコンクリートの溝にだけ水が流れるじゃぶじゃぶ池に改修され、生き物は姿を消しました。工事直前の池の自然は高島第1小学校荻野先生のお話からもうかがえます(本号p4)。

平成10年度の自然回復ボランティア活動講座では、ケーススタディとして徳丸が原公園の自然回復を考えました。講座終了後も継続して勉強会をもち、みどりと公園課とも相談しながら、一部分でも自分たちの手で自然を取り戻せないかと考え、自然池整備の案をつくりました。その経過は大西さんや、丸谷さんが会報に紹介しています。

その案を土台に、板橋区役所とボランティアが中心になって、池の一部を自然の水辺に整備することになりました。工事には専門業者が入りますが、整備方法を教えてもらいながら手づくりでやるので、ビオトープ整備を勉強するよい機会ではないかと思います。

整備後は隣接する高島第1小学校の学校ビオトープとしても活用されます。また、維持管理は、環境保全課とボランティアで行いますが、地域や学校も関わっていただけの仕組みを考えます。

池づくり勉強会 (池の目的・整備の仕方・最終的なプランの確認) どなたでも

日 時: 3月16日(木) 18時30分~20時30分

場 所: 板橋区役所6階601会議室

区役所夜間出入口(地下鉄区役所側改札口そば)より入ってください。

講 師: 水研クリエイティブ(株)尾坂 尚之さん

池づくり本番!

日 時: 3月18日(土)、19(日) 9時30分~15時30分

悪天候の場合は3月25日(土)26日(日)に延期します。

集合場所: 徳丸が原公園池前(板橋区高島平8丁目24高島第1小学校校庭向)高島平駅下車。進行方向に歩いて広い道路に出たら右折し、突き当たりの公園です。池(元池)は左手奥になります。

持ち物: 汚れてもよい服装と靴(あれば長靴)、弁当、飲み物、タオル、軍手

連絡先: 板橋区環境保全課(3579)2598 当日(坂本)090-4618-1295

徳丸が原公園の自然を考える会(自然回復ボランティア活動講座修了者の会)大西(3938)3106 下田(3955)0803

若木3丁目界隈の今昔

泉 貞代

昭和29年に引っ越してきた当時、ここは志村中台町といい、北の方に赤バツケと呼ばれる西台の崖が見えていたが、志村高校の擁壁でふさがれていた。わが家は中台側の雑木林の中であった。

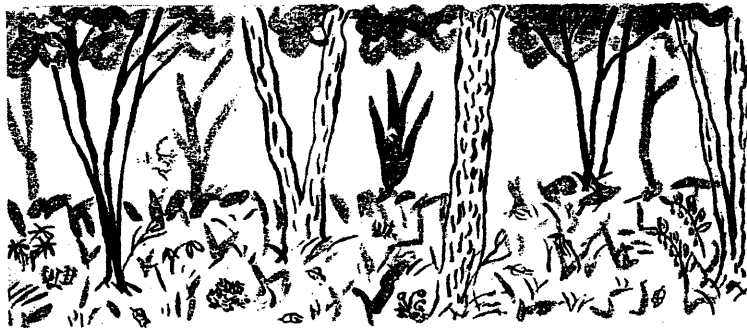
移転後間もない6月の早朝、けたたましい声に起きてみると、樹木の間を7~8羽の鳥が移動していった。この年と翌年、2~3回ずつこの鳥を見かけたが、以降は全く来なくなった。図鑑で調べてみると、コジュケイだった。

現在の若木通りは昭和30年代に拡幅、直線化されたが、以前は曲がりくねって起伏の多い道路で、坂道の一部が石畳で舗装されていた。

西台と中台の間の低地は野原と畑が広がり、川ともいえない細い流れが西から東へ貫いていた。地元の古老の話によると、今の若木2丁目、中台住宅の近くに農家があり、湧水の池で三つ葉や大根など季節の野菜を洗って出荷していた。

その池が水源となり、小さな流れで子供たちはサワガニやメダカ、フナなどを捕まえて遊んだという。私が住み始めた頃にはその農家はなく、上流に工場ができて、赤や青色の排水が川底によどんでいて、どぶ川のようなだった。子供たちは野原へ遊びに行き、その川を飛び、時には落ちることもあって、衣服や手足の悪臭と落ちにくい汚れには閉口した。どぶ川は後にコンクリートの三面工事で暗きょ化し、下流は蓮根川緑道と呼ばれる。

このあたりは江戸時代、上野東叡山領に属していたので、馬場崎とかお林山など、古風な地名が残っていた。越してきた当時は家数も少なく、めったに人の通行もなかった。子供たちは、誰か通ると見えなくなるまで「バイバイ」と手を振っていた。外出には上板橋駅まで歩くのが常だったが、たまたま車を見ると、「自動車だ!!」と喜び、立ち止まって通過するのを待ち、いつまでも見送っていた。彼らの遊び場は野原や雑木



林で、泥まみれになって野原で遊んでいる姿は窓から確認できたし、雑木林は木が茂っていて姿は見えなかったが、元気な声が聞こえるので、心配することはなかった。

内職に忙しい私に実家の母は「この子供らは放し飼いのようだ」と笑った。

その後、徐々に人家が増えて便利になり、のんきな生活はあわただしく変化していった。

昭和50年代の末頃、この雑木林は若木北公園（小鳥の森）として整備され、様相は一変し、近くの保育園児が日常的に訪れており、年配の人たちには散歩コースとして利用されているようである。

しかし、林の中に道を通したり、街灯をともすため、たくさんの樹木が伐採されたせいか、小鳥の声は以前ほど聞かれなくなった。

40歳代になった子供たちもたまに帰ってくると、カブトムシやカミキリムシがいっぱい出てきた木のことや、セミの抜け殻がたくさん落ちていた話、庭の隅でヘビを見たことや畑でモグラの子を拾ってきた思い出など、話題は尽きない。

雑木林の上の平地は以前から畑だった。農家の人がきゅうり、なす、とうもろこしなど、採りたてを売りに来たが、高齢のため、今は区民農園として開放され、家族連れでにぎわっている。

若木通りの東側にサンシティの高層住宅群が建ち並び、半世紀前の農村を偲ぶすべもない。

冬の徳丸が原公園の生き物探検

高島第一小学校教諭 荻野 光昭

1999年1月のある日、まもなくの進級を控えた4年生の児童とともに、徳丸が原公園で冬越しをしている生き物の探検を行った。

とはいっても、高一小の子どもにとって徳丸が原公園はいつもの遊び場。たまたま理科の単元に、1年間の生き物の様子を観察する学習があったから出かけてきただけ。なにしろ冬だから、動いて見えるのは人間と鳩ぐらい。公園に行くといっても休み時間の延長ぐらいの気持ちしかない。当然、スタートはまったく盛り上がり欠けていた。

まず観察したのはロゼット。野球場の縁でセイヨウタンポポはすぐに見分けられた。「こういうふうに地面にぴったり張りついて、冬の寒い北風から身を守っているのをロゼットっていうんだよ。」と話してから池の周りに歩いていくと、なんと石垣には何種類もの植物のロゼットが見事に並んでいる。しかし、子どもたちはなかなか気づいてく

れない。見てはいるけど見えてはいないってこういうことか、と変なところで納得してしまった。

ところが、子どもが集団でいるっていうことはすばらしいもので、その中の一人が「先生！あそこにくっついてるのもロゼットですか？」っていういぶかしげな声を上げたのをきっかけに、「ほんとか。ロゼットだロゼットだ！」と石垣の周りであっという間に人だけになりってしまった。

さらに、次の時間に次のクラスが観察に出向いた折、たまたま川の改修をしていたおじさんが、落ち葉を掃除しているうちに越冬しているウシガエルを見つけてくださったものだから、もう大変。わざわざ何人かが学校に戻ってきて「でっかいカエルが冬眠している。」と触れ回ってくれたこともあって、再び、公園へと出発することになった。

ぬれた冷たい落ち葉の下には、ほんとうにでっかいウシガエルがじっと動かずにいて、普段は恐がりの女の子までが「ちょっとさわっていいですか。」といいだす始末。静かに冬眠していたカエルは一躍大スターにさせられ、さぞ迷惑だったことだろう。

おじさんたちがさらっていた池からは、アメリカザリガニがわんさか見つかり、ドジョウやウナギまででてくるにいたって、子どもたちは改めて徳丸が原公園に驚いていた。スタートの盛り上がらなさから一転、大はしゃぎで公園をはい回って探検は終わった。

池と川の改修後、それらの生き物たちは公園から姿を消したが、できるなら子どもたちの身近な環境の中に、多くの生き物がくらしていける自然をふんだんに残しておいてあげたいものだ、としみじみ感じた冬越し探検の一日だった。

余談になるが、そのときのドジョウくんは今も職員室の水槽で元気に毎日を過ごしている。



赤塚の森近況報告

コサギがきた！

滝川さんより、溜池の自然池に「コサギがいた」との報告。1月24日の日付入りの証拠写真はコサギが小さくて紙屑のように見える。憤慨した滝川さんが写真を拡大してみんな納得。コサギと水面に映った逆さのコサギです。これが最後のフィルムであわてて新しいカメラで撮ろうとしたらフィルムの巻き上げがうまくいかず破れてしまったとか。この次は冷静にとった傑作写真を期待しましょう。



梅まつりで池のPRをしました

池のゴミをとり、水路の落ち葉をよけて水の流れをよくし、フェンスを直し、枯れ草も少し刈って梅まつりに備えました。当日、たくさんの方が池やパネルを見て下さいました。5日(日)啓蟄で池のなかにカエルを発見。池の橋からカエルをのぞき込む人もいて、自然のPRをするよい機会となりました。大西さん達が竹で一輪挿しをつくりはじめたら、たちまち希望者が並んで黒山の人だかりに。



草原のビオトープはどうだろう

ビオトープというと、どこでも池を掘り、水草を植え、さー、トンボはいつ来るだろう、カエルはどうか? となるようだ。確かにトンボは目立つし、人気者だ。遠くから飛んできて、目ざとく水面を見つけ、立ち寄ってくれるトンボはありがたい。ビオトープの成果が早くも現れた、と大喜びさせてくれる。2年前、乗蓮寺下に掘った池に、早速クロスジギンヤンマが来た時はほんとうにうれしかった。

ところが水辺のビオトープには、一つ欠点がある。作るのが大掛かりになる、したがってお金も大掛かりになりやすい、という点だ。水のもれない容器を土に埋め、小さな水辺を作るという安上がりな方法もあるが（これももちろん立派なビオトープだ）。

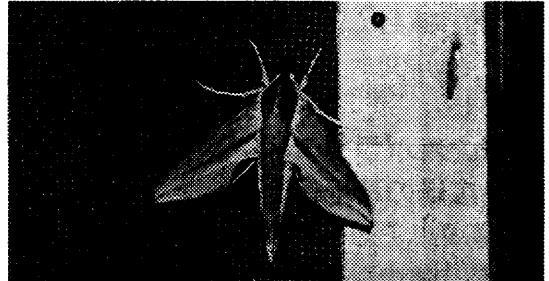
発想を転換してみよう。自然は水辺だけではない、森林も草原も自然、畑や田んぼも森や草っぱらと一緒に、いろんな生き物たちの生活の場になるだろう。たった数本の木の森、狭い草原、たいした生き物は来ないだろうが、よく見れば何種類かの昆虫は来るに違いない。

草原のビオトープ

これはとにかく手軽だ。地面を少し耕し、後は雑草が生えてくるのを待つだけ。どんな草が最初に生え、それからどの草の勢いが強くなるか、など観察すれば面白いだろう。昆虫では、まずオンブバッタが来るはずだ、小さな子バッタがいつのまにかいるだろう。ツツレサセコオロギやヒシバッタ、稲の仲間の草が多ければコバネイナゴも来るだろう。シロオビノメイガ、アワノメイガといった小さな蛾も来る。

回りを柵で囲み、つる草を這わせると面白い。

ヤマノイモにはダイミョウセリ、ヤブガラシにコスズメガやセスジズメガ、ヘクソカズラにはホシホウジャクが寄ってくる。ヤブガラシは花は小さいが、蜜は多くアオスジアゲハを始め多くの蝶が来るだろう。



コスズメ

水辺と草原の組み合わせ

水辺と草原を組み合わせれば一層面白い。アジアイトトンボが草の間で餌を狩るのが見られるし、荒川に近ければアオモンイトトンボも来るかもしれない。

池のまわり、最低でも3分の1ぐらいは踏みつけないようにして、セリなどを植えたい。板橋では珍しくなってしまった、キアゲハが卵を産みに来るかもしれない。

畑と草原の組み合わせ

落ち葉を集めて堆肥を作ってみる。ダニやトビムシ、ミミズが枯葉を分解し、最後にバクテリアや菌類が植物が利用できる形にする。

一方、作物の上ではアブラムシが茎に吸いつき、チョウやガの幼虫が葉っぱを食べる。ジガバチやアシナガバチがイモムシ、ケムシを襲い、テントウムシがアブラムシをどんどん食べている。

農薬、化学肥料が地に満ちあふれる前の、少し昔の畑に立ち、自然と人間が荒々しく触れ合った過去を想像してみたい。 (釣巻岳人)

活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことは事務局(3579)2598まで。

<4月定例会>

総会に向けて、運営・活動計画等について検討します。5月以降の運営については総会で決定されるので、スケジュール等は未定です。

日 時：4月7日(金) 18:30~20:30

場 所：産文ホール 第5会議室

持ち物：弁当、水筒

<竹グループ>

和光市で竹かごを作っていた方のお話を聞きに行きます。その後今後の活動について話し合います。時間の都合がつく人は白子川湧き水見学を兼ねてどうぞ。直接来る人には地図をお送りしますのでご連絡ください。

日 時：4月1日(土) 13:00~15:30

集合場所：和光市吹上観音

(西高島平下車徒歩25分)

連絡先：猪鼻(3933)8269

坂本(当日)090-4618-1295

<赤塚の森ボランティア>

●城址広場の草地保全柵

3月に広場にお知らせの掲示をしました。用意した竹や杭になる枝で、4月から広場に草原用の低い柵をつくります。

日 時：4月 8日(土) 10:00~15:00

5月13日(土) 10:00~15:00

場 所：美術館集合、遅れた人は城址広場

持ち物：軍手、タオル、はさみ(シュロ縄用)

●自然池のザリガニ捕獲

ザリガニが産卵する前に捕獲し、なかなかとれない金魚も釣り上げて出ていってもらいます。捕獲作戦に参加できる方はご連絡下さい。

連絡先：滝川(3934)3421

●徳丸が原公園自然池勉強会

詳細は本文をごらんください。

日 時：3月16日(木) 18:30~20:30

場 所：板橋区役所6階601会議室

講 師：水研クリエイト 榊 尾坂尚之氏

●徳丸が原公園自然池づくり

詳細は本文をごらんください。

日 時：3月18日(土) 9:30~15:30

3月19日(日) 9:30~15:30

悪天候の場合は次の週に延期します。

場 所：徳丸が原公園

●和光市の湧き水を見に行く会

板橋と和光市の境を流れている白子川を知っていますか。板橋側には湧き水はありませんが、和光市にはまだ豊富な湧き水が白子川に流れ込んでいます。とはいうものの開発は目の前までできています。お隣の町の崖と湧き水を見学し、吹上観音でお弁当を食べます。

日 時：4月1日(土) 10:00~13:00

集合場所：成増駅改札口(時間厳守)

連絡先：坂本(3579)2598

(当日)090-4618-1295

編集後記：

会報にお芝居のご案内を同封しました。劇団銅鑼は板橋区にあり、(財)板橋文化振興財団共催で今回は環境がテーマだということなので、ご紹介することにしました。